



暑い夏が戻ってきました。草原では、バッタの仲間がせっせと

葉を食べて大きくなっています。頭上ではクマゼミ、アブラゼミ、ニイニイゼミが鳴き、コシアキトンボやウスバキトンボの姿も見られました。

(この記録には7/9の画像も含みます)



ゴイサギ

北を指して飛んでいきました。虹彩が赤く



頭に青みがかった羽毛があります。「ゴイ」は朝廷での位を表し、平家物語に正五位が与えられたとあるそうです。愛知池の北側にあるサギの繁殖場所があります。



上はアブラゼミ、左はニイニイゼミの羽化殻です。アブラは高い場所ニイニイは低い場所で羽化することが多いです。



キオビツチバチ(狩蜂)

翅の下に黄色い帯が見える蜂が道端にうずくまっていました。土に潜ってコガネムシ類の幼虫を探して卵を産み付けるツチバチの一種です。



オオモンクロベッコウ(狩蜂)

翅の下の黄色い紋がはっきりし黒色が目立ちます。これはコアシダカグモなど大型のクモに麻酔し、巣穴まで運んで卵を産みつけます。同じようにクモを狩る黄色いベッコウバチもいました。



ヒルガオ

朝から夕方まで咲くのでヒルガオと名付けられました。萼を見るとその下に2枚の苞があります。地下茎を伸ばして広がります。



ドクツルタケ

今年の夏はまだキノコにあまり出会っていません。その

中で唯一目についたのがこれです。かさの下に「つば」が垂れ下がり柄にはダンダラ模様が、その下には「ツボ」がありました。強い毒を持っています。



コウヤツリアブ

体長15ミリくらいで、蠅と外見が似ていますが、翅の透明な場所に黒い斑点があります。狩蜂やハナバチ類に寄生する蛇です。



ホソヘリカメムシ幼虫

一見するとアリに見えるカメムシの幼虫でマメ科の実から汁を吸います。このカメムシは体内に共生する細菌を幼虫



の時に土中から得ています。



ヒロヘリアオイラガ幼虫

体長 25 ミリ。短い棘が体をおおい、刺されると鋭い痛みを感じますが成虫には毒はありません。桜



の樹皮などで繭をよく見かけます。



ワルナスビ

花はナスやジャガイモに似ていますが茎や葉に細い棘があ



ります。実は毒があります。



**クロオビ
ノメイガの巣**



コナラの葉を重ねテントのように糸で綴っていて、見ていたらすき間から幼虫が出てきました。



カタハリウズグモ

円網の中心部に渦巻き状の隠れ帯を作ります。ウズグモ類の横糸にはべたつく粘球はなく、梳糸と呼ばれる極めて細い糸がまとわりついた糸で獲物を搦めるそうです。



コムラサキ

地面におりたかと思ったら近くの木の葉に素早く移動しました。翅を開くと紫色がきれいです。幼虫は柳の葉を食べます。ちょうど目の前がアカメヤナギの生息場所でした。



マユタテアカネの雄

顔面に黒い斑点が2つあるのが特徴で、名前の通りアカトンボの一種です。雄ですがまだ赤くなっていない未成熟の個体です。成熟すると唐辛子の実のように腹部が赤くなります。



7月9日に記録したトンボ

(上)ナゴヤサナエ 河川で見られるトンボです。愛知用水を経てやってきたと思われます。上流域の砂地の川で繁殖しています。近年数が減っているトンボです

(下)モノサシトンボ 木に囲まれた池の暗い岸辺でよく見られます。イトトンボのなかまでは大きい方です。腹部に白紋がありほぼ等間隔に並んでいる様をモノサシにみたてた名前です。